



「年輪で読む世界史
チンギス・ハーンの戦勝の
秘密から失われた海賊の財宝、
ローマ帝国の崩壊まで」
バレリー・トロエ 著、
佐野弘好 訳
築地書館、2021年7月
340頁、2,970円（税込）
ISBN 978-4-8067-1621-1

文、図、絵に浸って、居ながら時間旅行と世界旅行を大いに楽しみました。歴史の事件の渦中で苦しんだ人々には誠に申し訳なく思いつつ、天上から下界の右往左往を眺める優雅な気分になって、事件の因果関係が解き明かされると好奇心が満たされ喜ぶ、娯楽の読書です。勿論、厳正な科学、年輪年代学を基に昔の自然と人間社会の関係を解明し、多くの人々に伝え未来に役立てたいとする真摯な志に溢れた読み物ですが、歴史好きの物好きには有難い遊び種となりました。

著者はベルギー出身、スイスの森林・雪氷・景観研究所では年輪年代学により北大西洋振動と中世気候異常の関係の解明について成果を上げ、現在はアリゾナ大学年輪研究室の准教授、世界の年輪年代研究を主導する卓越した科学者です。まずは学問の紹介、木の種類や生育場所により寒さ又は渴きに弱いこと、成長抑制で年輪幅が狭くなり、気温又は降水の変動が復元出来る。火災・暴風・地震等による損傷、成長抑制も年輪に残る。試料採集は、現在生きている樹木、現生木の幹に手動回転、穴を開け、年輪を取り出す「標本抜き取り器」の妙。試料同士、年輪幅の広い狭いが同じく並ぶ共通部分を見つけ、現生木、枯死木、歴史建築物の材木、考古遺跡の木製品、半化石木と繋いで過去へ遡り正確な年代資料が作られる。分かり易く書かれたこれら年輪年代学の手法が読者には新鮮な驚きです。こうして出来た年輪からの正確な年代と気候の情報を基礎として、鍾乳石・氷床コア・魚の耳石等、他の気候指標や歴史資料を合わせ、過去の気候・環境変動と人間社会の関係を探ります。

新石器時代の木製井戸、法隆寺仏塔の心柱、ロー

マ・モンゴル・オスマン諸帝国の盛衰、疫病、ヨーロッパの中世温暖期と小氷期、ハリケーンと海難事故、海賊隆盛等、歴史の様々な興味深い出来事、その他、火山噴火、地震、隕石爆発、原発事故に至るまで、事件を解き明かす基礎として年輪年代学は威力を発揮します。読者は思いもよらなかった発見に合点が行って驚きます。先住民の日常小規模な山焼きによる大火災防止、西洋からの伝道による感染症持ち込みで先住民大量死、大火災増加、といった一連の経過はアメリカの悲しい歴史として心に刻まれました。様々な事件の解明に著者が用いる道具は気候・環境変動の「実物」、年輪。似て非なる架空の数値「模型」を扱う人間から見ると、説得力の違いは歴然、随所で羨ましいばかりでした（本書で気候復元のため、現代の年輪と気象機器観測を照らし合わせて作る寒暖や乾湿の推定式も一種の模型と言えますが、現実の気候を経験した樹木を使うわけですから、やはり実物でしょう）。

こうした素晴らしい過去の解明は、多くの年輪年代研究者による人里離れた苛酷な野外調査、標本採集の賜物、野外調査に於ける心と体の辛さが一部軽妙に語られます。無味厳正な科学に人間味が加えられ、そのため一層、現場の苛酷さが伝わります。しかし読者には他人事、こんな大変な仕事を稼業にしないで良かった、得られた成果だけ頂いて、家でくつろいで読む立場で良かった、と意地悪ですが一番面白い部分かも知れません。

多くの学問が集まる複雑な内容にも拘わらず、貴重な知識の吸収且つ楽しい読書が可能となったのは、佐野弘好博士（九州大学名誉教授）の的確な訳の御蔭でもあります。原書では時間が掛かって読み終えられず、面白さが台無しになった事でしょう。巻末の樹木和名学名一覧、用語集、参考文献等は理解と研究を進める上で大いに役立つと思います。気候・環境問題を考える時、世界史に遊びたい時、寒暖・乾湿だけでなく人間活動も表す年輪年代学からの（一年一年の凹凸に研究者の苦勞が詰まった）貴重な時系列図や珍しい年輪の写真も含め、何度も読み眺めて過去を頭に入れて欲しい、必須の本です。

（気象研究所 小畑 淳）